

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 06

学校名・団体名	星のまち仙台防災教育研究会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	地域と連携して行う防災教育の展開と絆づくり
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>(1) 本校の防災教育の取組を知る学識経験者の方に継続して評価・助言をいただき、防災教育の充実と、地域連携の取組を生かした「地域の子どもと大人の学びの共同体づくり」を目指す。</p> <p>(2) 防災教育の取組を通してつながった東海の方と実施する「三陸&amp;東海防災教育フェスティバル」に参加することで、防災教育の取組と可能性の豊かさについて発信し、学び合い、相互の防災・減災に生かす。</p>	

<活動・研究報告> (時期、内容、成果や子どもたちへの効果などを記入。A4用紙1~2枚でおまとめください。)

1 活動・研究の時期及び内容、成果			
時期	内容	詳細	成果
2017年 7~8月	総会開催  大学教授による助言  三陸&東海防災フェスティバル打ち合わせ会	・総会において今後の研究・活動方針を検討し、具体的な活動の時期と内容を決定した。  ・戸野塚厚子宮城学院女子大学教授による助言を受けた。 ・東海地区の実行委員が来仙し、本会会員と打ち合わせを行った。	・総会で以下の主な方針と具体的取組を決定した。 ① 地域との連携を図った防災教育進展のため、一つの地域連携のモデルとして6年生児童企画運営による地域の絆づくりに貢献するフェスティバルの取組について地域内外に発信していく。 ② 社会教育や地域連携の専門家からの助言の時期・内容等 ③ 東日本大震災の沿岸部の被災状況や復興へかける思いなどを学ぶ機会を設定。(語り部の講演会) ④ 他校に勤務する会員も、それぞれの学校や地域の特色に応じて、地域連携の取組や防災教育を進めていくこと。 ・ロジャー・ハートの「参画のはしご」を指標にすることができることを指導いただき、活動計画や評価に生かすことができた。 ・三陸と東海の防災教育や防災・減災の取組について、発表の仕方、情報交換の方法、Round Study (グループ討議を取り入れた話し合い)の持ち方等について検討した。
2017年 9~10月	和・話・輪フェスティバルの実施	・第4回和・話・輪フェスティバルの実施(「三陸&東海防災フェスティバル」実行委員長の参観)	・会を重ねた成果で各団体(23団体)の参加もより積極的な姿勢になった。また、児童も担当団体との交流を進めてきたため、主体的に自信を持って活動した。 ・前日準備と当日の様子を市川実行委員長が参観し本校の地域と連携した防災教育について理解を深めた。
2017年 11月	「防災国体(内閣府主催)」参加(11月26日~27日) 「和・話・輪フェスティバル向上委員会」開催	・仙台市国際センターで開催の「防災国体」に市川実行委員長と本会代表千葉が参加 ・松本大弘前大学准教授が参観	・「三陸&東海防災フェスティバル~伝~」の広報活動に取り組んだ。全国からの参観者に、地域と連携した防災教育や防災・減災の取組の良さや改善すべき点等についてアピールすることができた。 ・6年生児童の実行委員会が、第4回和・話・輪フェスティバルの成功を受けて、「より地域の人々とのかかわりが進む仕組みを作ることができないか」との視点で考えた。
2018年 1月	本会主催第1回講演会を実施	・講演会テーマ「学校×地域」でつくる学びと防災~和・話・輪フェスティバルの魅力発信!!~(福沢市民センターとの連携事業)	・松本大准教授(弘前大学教育学部社会教育学)を講師に、「地域連携の教育活動の歴史や現在の変革、今後の展望と学校の取組」について講演いただいた。当日は、本会会員の他、保護者や地域住民が参加し(32名)、「子供は地域で保護者や地域住民、学校が連携して育てるという意識の大切さ」「大人も共に学びあうことの大切さ」を感じたという感想が多くあげられた。
2018年 2月	「三陸&東海防災フェスティバル~伝~」に参加 30年2月17日(土)	・本会から7名が参加し、地域と連携した防災教育の取組や活動について発表した。	・名古屋学院大学白鳥学舎で開催したフェスティバルのパネルディスカッションでは、地域連携の防災教育における学校の役割や新たな地域連携の仕組の可能性等についてアピールすることができた。
2018年 3月	本会主題第2回講演会を実施 総会開催  防災学習体験会を実施	・講演テーマ「学校帰る地域」でつくる学びと防災~気仙沼の語り部さんとともに~(福沢市民センターと連携事業) ・HUG-S体験会 ・総会で、今年度の活動の総括と今後の方針を決定	・講師に気仙沼観光コンベンション協会の語り部を招き、気仙沼の被災時の状況や復興にかける思い等を聞いた。会員の他、本校児童、卒業生、保護者、地域から30名が参加し、沿岸部の被災状況・人々の思いなどを学んだ。 ・総会では、今後も地域と連携した活動の充実を目指して、地域内外の方と交流しながら学びと活動を継続することを確認した。 ・HUG-S(避難所運営ゲーム仙台版)体験会を同日開催。本会会員の他、児童・卒業生・保護者・市民センター館長・市民センター職員が体験して学び合った。

2 活動や研究の成果と今後の課題及び活動

今年度の本会の活動で得た学びを地域と連携した防災教育の学習に生かすことができ、児童がより主体的に自分ごととして防災・減災やまちづくりや、新たな地域連携の仕組みづくりについて考えていきたいという意欲につながることができた。児童の学びを中心として、豊かにかかわり合っ共々に学び、活動し合う地域づくりや防災・減災の取組の継続に今後も力を入れていきたい。「三陸&東海防災フェスティバル~伝~」の開催は、本校の「和・話・輪フェスティバル」の良さを実感してくれた東海の教師や学生と共に、和・話・輪フェスティバルの全国版を実施したいという本会の思いから実現に至ったものである。このフェスティバルに気仙沼の語り部や石巻市の復興住宅建設にかかわる方の参加があったことはとても意味がある。仙台の都市部で活動を展開する本会が、三陸の沿岸部の方を仙台や東海の方々につなぎ、学ぶ合う場づくりを設定できる存在になることも確認できた。本会主催の講演会やHUG-S体験会に参加した児童・卒業生・保護者・地域住民は、そのかかわりを大切にしながら、学びや活動を続けていきたいという意欲を高めた。今年度、ちゅうでん教育振興財団の助成を受け活動して得た様々な成果を大切に、そこで育まれた人間関係を生かしながら、新たな研究や活動、情報発信、学びの機会の提供を行っていききたい。「子供は地域のみんで育てる」「防災・減災の取組もみんなで協力し合っで行う」という目標に向かって、具体的な教育活動を実践しながら学校での子供の学びの充実に取り組んでいきたい。